

# お買い物支援にかかわる市民活動

## ■■ 背景 ■■

高齢者人口割合の増加や高齢期家族の単独世帯化・夫婦世帯化の増加に伴い、後期高齢者を中心に日常の買い物に困る方が出現しやすくなっています。移動販売や宅配サービスも存在しますが、月に1回くらいお店に行き自分の欲しいものを選びたいと願うことは、人間の基本的な欲求ではないでしょうか。研究によると、自宅から半径500m以内にスーパーがない場合、買い物に困ることが多くなるようです。過疎地域でこの問題は生じやすいですが、都市部でも買い物に困っておられる方がいます。ボランティア団体フレンド（代表：白石雅朗）と大阪商業大学の宍戸ゼミナールでは、上小阪校区を対象に社会調査を実施し、買い物支援にかかわる活動をスタートさせています。

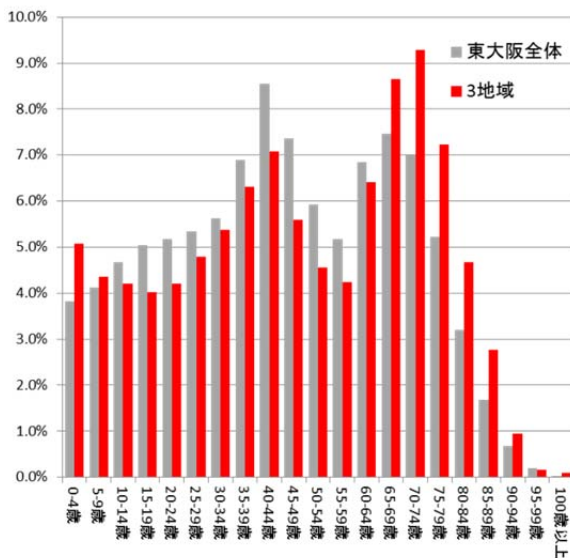


図1 上小阪校区の人口構成

上小阪校区では、65歳以上人口の割合が34%となっており、人口高齢化が進んでいます。

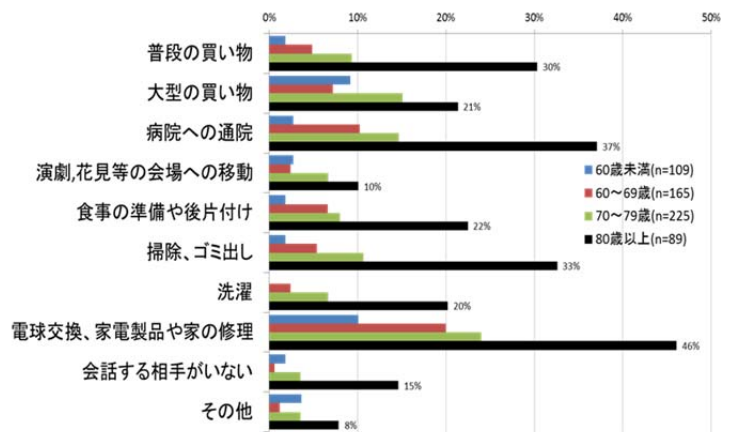


図2 日常生活で困っていること

上小阪校区内の自治会の協力のもと、社会調査を行いました。普段の買い物や通院に困っている方は一定数おられ、特に80歳以上の方では3~4割の方が困っていると回答しています。

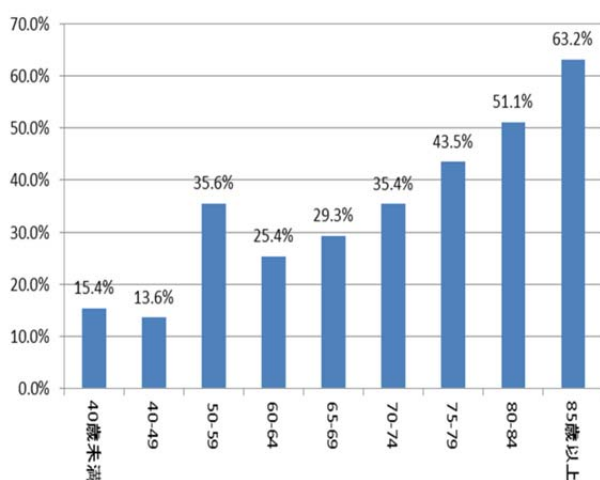


図3 買い物支援を「利用したい」と答えた人の割合

全体では35%の人が利用したいと回答しました。80歳以上では5割以上となっています。

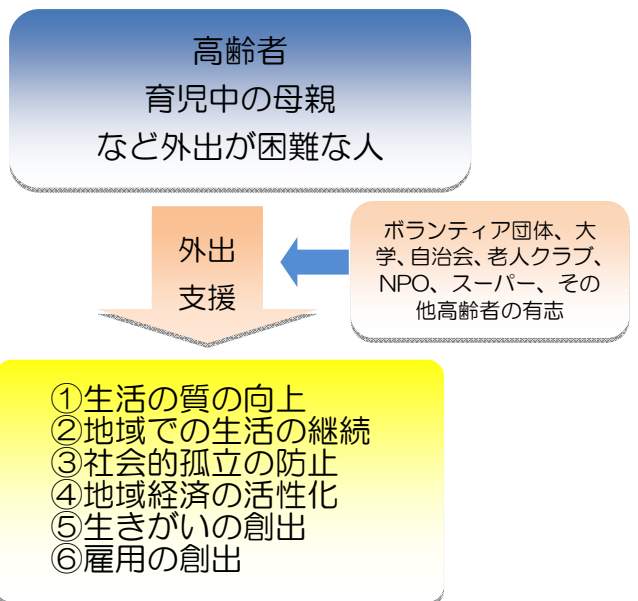


図4 買い物支援が地域生活に及ぼす効果

このプロジェクトは緒についたばかりです。協力者や財源が不足しています。大阪商業大学で1年半前から毎月1回このプロジェクトの企画ミーティングを開いています。ご協力いただける方や関心をおもちの方は、代表の白石 (tel 06-6725-8955) まで、ご連絡をお願い申し上げます。